

認定こども園せんだい幼稚園 園長 田原 慎也

アナ雪から見る「ありのまま」だけではいけない子育て感

もう10年程前の映画で恐縮ですがふと思い出したのでアナ雪の話題を。当
児、松たか子さんの歌う「Let it go～ありのまま～」は映画を視聴していな
い子でも歌えるほど、ポピュラーな歌となっていました。毎日どこかしこで、女
の子たちがまさに手のひらから氷を出しそうなくらいの勢いで、手を大きく広げな
がら「♪ありの～ままの～」と歌っており、テレビをあまり見ない我が家の娘もい
つのまにか歌詞を覚えて歌っていました。

アナ雪ブームも落ち着いた頃、今さらながらとは思いつつDVDをレンタルして
視聴してみると、思ってもいない展開に驚いたのをおぼえています。視聴前は
「♪ありのまま」は「自分らしく生きる女性の力強さみたいなものを表現した
歌なんだろうな」、そして「映画のエンディングなどで流れるんだろうな」と勝手
にイメージしていたわけです。

ところが実際にこの歌が流れるのは、エルサが自分の魔法の能力を制御でき
なくなり、人を避けるかのように雪山に逃げ込んだときでした。誰もいない雪山
では誰も傷つけることもないし、人を気にしないでもいい。「♪ありのまま」は
私が思い描いていたようなポジティブなエンディングテーマではなく、「ありの
ままの自分になる」「もう決めた」「少しも寒くない」など、社会と距離をおくこ
とで初めて自分らしく生きられるというある種の強い決意の歌だったのです。

しかしながら、「ありのまま」と力強く歌った直後に起きたことは、自身の能力に
よって自分の国が雪と氷で覆われてしまうという事態でした。

仏教で「諸法無我」という言葉があります。「すべての事物は繋がっており、
何からも独立して存在しているものはない」という意味です。誰からも支配
されずに自分の力だけで生きていこうと思っても、誰かが作ってくれた製
品に囲まれ、誰かが作ってくれた農作物や食べ物を口に、結局は自分以外
の「誰か」のお陰様によってしか生きていけません。雪山に籠り、好きに生きよう
と決めたエルサが出会った現実、どうあがいても自分の存在を完全に他と
は切り離すことはできないという「諸法無我」そのものだったのです。

誰もが「ありのままの自分でいい」「自分は自分」という考えに固執すると、知
らず知らずに人を傷つけてしまうこともあるでしょう。映画のエンディングではエ
ルサが氷の能力でスケートリンクを作り、人々を笑顔にさせます。自分らしさを
生かしつつ、「わが(我が)ままに」ではなく、相手にあわせて能力を使うので
す。園生活はまさに映画のような思い通りにいかない世界を味わう場でもあり
ます。ぶつかりあうような経験を通して、「ありのまま」を自身で制御しようとして
いくことが「ありのまま」でいられるために大事なこともあるかもしれません。

